

教授・学習12 (680~688)

- 座長 小石寛文・菊野春雄
- 680 文章の表現力に関する研究(1)
広島大学 石田 潤
- 681 文章の表現力に関する研究(2)
広島大学 森 敏昭
- 682 絵と語の記憶における項目情報と関係情報
大阪薫英女子短期大学 菊野春雄
- 683 自由再生記憶における新近性効果
静岡大学 漁田武雄
- 684 多義語と文脈語の呈示間隔が多義語の同文脈再認に及ぼす効果
お茶の水女子大学 仲 真紀子
- 685 再認記憶における漢字対と文脈効果
東京都立大学 平沢 由美子
- 686 読みに関する発達の研究(Ⅱ)
—情報の統合と推論機能の検討—
関西学院大学 斎藤 洋典
- 687 文の理解と記憶
—統語構造と意味構造について—
富山大学 梅村 智恵子
- 688 短文の逐語的記憶における音読と黙読との比較
神戸大学 小石 寛文
- 680・681 堀(長岡短大)から、結論として何が言えるのかとの質問があった。これに対し、森は作文を評価する際に影響する要因として、書き出し文のカテゴリーや前提の有無などが重要であると言えないのではないかと答えた。小石(神戸大)から、文をカテゴリーごとに分類する場合に困難な点がなかったかとの質問があった。これに対し、石田はカテゴリーごとに文を分類することは比較的容易になされ、1つの文が2つ以上のカテゴリーにまたがるようなことはなかったと答えた。
- 682 堀から関係処理と項目処理の各課題で処理時間に差はみられなかったのかとの質問があった。これに対し、菊野は確かに項目処理よりも関係処理の方が処理時間が多くかかり手続上問題があると答えた。藤田(奈教大)から項目情報と関係情報についての質問があった。これに対し、菊野は項目情報と関係情報が再生過程で異なった機能をするが、必ずしも両情報が独立していると言えないと答えた。
- 683 石田(広島大)から2種類のリハーサルを仮定せずに、直後再生テストでの新近性効果をどのように説明するのかとの質問があった。これに対し漁田は、新近性効果は記憶強度の差によるものでなく、むしろ新しい項目というだけで想起されたのだと考えている。そのため、新近性効果の説明のためにあえて2種類のリハーサ

ルを仮定する必要はないと答えた。小石からP(9-12/1)について質問があった。これに対し漁田は系列位置1番目が再生された時の系列位置9~12の再生率であると答えた。

684 福田(筑波大)から多義語と格の関係及び刺激材料のコントロールについての質問があった。これに対し、仲は多義語と文脈語との関係についての分析を行わなかったこと・多義語と文脈語の関係が影響しないようにランダムに刺激材料が作成されたと答えた。

685 堀からP(FA-N)の指標はどんな意味を持つのかとの質問があった。これに対し、平沢は再認テストでのディストラクター項目への虚再認率であり、学習条件での反応バイアスを示していると答えた。

686 森(広島大)より漢字の複雑性の指標として、画数とドット数のどちらが最適かとの質問があった。これに対し、斎藤は、テキストスコープのように白抜き文字の瞬間視の実験では、刺激の輝度で画数よりもドット数の方が重要な要因になると答えた。福田よりディスプレイ上での短時間の刺激呈示の方法についての質問があった。これに対して斎藤は、アップルコンピュータのページ切り替えを用い、あらかじめ漢字情報を呼び出しそれを転送する方法を用いたと答えた。小石より情報のあつめ方に一貫性があるのかとの質問があった。これに対し斎藤は情報を収集する過程からそれらを統合する過程への移行の点などを用いて今後検討する必要があると答えた。

687 福田より深層構造と表層構造に関する質問があった。これに対し梅村は文の記憶では深層構造である意味が主に記憶されるので、表層構造である表記の再認は意味の再認よりも困難になると答えた。小石より表層構造に注目させても意味が介存するので表層構造は棄てられているのかとの質問があった。これに対し梅村は長期記憶のレベルでは、表層構造が棄てられるので、表層構造は意味から再構成されると答えた。

688 石田より逐語的記憶と音読との関係についての質問があった。これに対し小石は記銘文が再構成しやすい文であったことや音読が負担の多い行動であることにより、音読が逐語的記憶を促進させなかったのであろうと答えた。斎藤(関学)よりどのような記憶を調べることが価値があるのかとの質問があった。これに対し、小石は発達を考える上で逐語的記憶と意味的記憶との両方が価値があり、両方の関係が問題になるのではないかと答えた。
(小石寛文・菊野春雄)